

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

マーケティングと営業の違い フィリップ・コトラー (ノースウェスタン大学特別教授)

1. 今日の成熟化した社会では、競合している企業同士で作る商品は、どうしても似てきます。その中で、営業マンは「うちの製品は他社と違って特別なんだ」と、一生懸命説明して売ろうとしています。それに対してマーケティングの仕事は、説明しなくてもいい製品を作ることです。つまりマーケティングがよい仕事をすれば、営業マンはいなくてもいいとすらいえる。
2. マネジメント研究の第一人者であるピーター・ドラッカーは「マーケティングの目的は、セールスの必要をなくすことだ」と言いました。でも彼は、決して営業はいらないとか、営業に対して反対していたわけではありません。むしろ、営業が不必要になるくらいいい製品を作らなきゃいけないと言ったわけです。よいマーケティングができれば、消費者は並んででも買いたくなるのですから。
3. その意味でいうと、私が経営者なら、敏腕営業マンがそろっているが、マーケティングはお粗末な会社よりは、たとえ営業マンが平均的だとしても、優秀なマーケティングのチームを持ちたいと思います。もちろん、両方とも優秀であるに越したことはありませんが、マーケティングの歴史を振り返ると最初は製品主導型でした。シャンプーだろうが車だろうが、会社はとにかく作ってとにかく売る。工業化社会のモデルです。次に情報化によって顧客主導型になりました。3番目がブランド主導型です。商品を起えて、ブランドが中心に置かれた時代があった。そして今は4番目の価値主導型になっています。自分たちが何のために存在し、どんな価値をつくっているのかを示すことです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014年3月22日号)

経営者のための理念・哲学

災害を乗り越え成長した経営者の志

1. 人類史上最大の悲劇、広島での原子爆弾投下は、推定 14 万人の尊い犠牲者を出したが、その後、今につながる多くの大企業が生まれている。その代表格が戦前は 3 輪トラックの製造で名を馳せていた後の自動車メーカー、マツダだろう。本社が奇跡的に被爆を逃れたため、戦後は建物を広島県に県庁として貸与するなど、広島の復興を支えた。3 輪トラックの製造も 4 カ月後には再開。1949 年にはインドへの輸出を実現した。その後悲しみを乗り越え、山本健一 (後の社長) とその部下 47 人が開発したのが後に「マツダの魂」と言われるロータリーエンジンだ。
2. 広島で食品会社を営む松尾孝が興した製菓会社のカルビーの「かっぱえびせん」。松尾には原爆投下で困窮にあえいでいた子供の栄養状態を改善しようという、戦後復興の志があった。

(参考:「日経ビジネス」: 2014年3月10日号)

人事・労務について

高卒正社員の激減

1. 前回の東京オリンピックの翌年に当たる 1965 年、実は日本の工業高校の数が最も多かった年だ。その数 925 校。工業高校で学ぶ生徒の数は約 62 万 4000 人に及んだ。全高校生の 12.3% が工業高校に進み、ほとんど製造現場の戦力となっていた。だが、高度経済成長の終わりとともに工業高校は減り始め、バブル崩壊後は加速度的に生徒数も減っていった。2013 年には工業の学科がある高校が 542 校まで減り、生徒数はピーク時より 6 割弱も少ない約 26 万人と縮小。全高校生に占める工業高校生の割合も 7.9% にまで落ち込んでいる。
2. 工業高校に生徒が集まらなくなったのは、大手メーカーが高卒社員を採用しなくなったからだ。2014 年度の高卒採用計画を見ると、日立製作所が 50 人 (全体の採用数は海外を含め 5000 人)、東芝 60 人 (全体は 550 人)、1000 人単位で高卒社員が入社した、かつてのような面影はない。春の賃金交渉でもモデルになる「高卒ブルーカラー」はいまや、絶滅寸前の属性である。

(参考:「週刊東洋経済」2014年3月15日号)

古典に学ぶ

無為にして化す

(解説) 正義は、政治の役に立つ。奇策は、戦争の役に立つ。だが、正といい奇といっても、所詮は相対的な区別にすぎない。それにとらわれてはならないのである。民心を帰服させて天下を治めるには、正奇を超越した無為によらねばならぬ。聖人はこういつている。「わたしが無為であれば、人民はおのずと生きる。わたしが動かずにいれば、人民はおのずと正しくなる。私が手をくたさなければ、人民はおのずと豊かになる。わたしが無欲であれば、人民はおのずと本性に戻る」。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)